

都市の未来

ひとがいて、まちがある。
ひとの知性とパワーが、
まちの文化とエネルギーを生みだす。
あすのくまもとを託せる
人材づくりの環境を整えます。

21世紀を支える人材の育成



Human City くまもと

学校教育

本市は、人間性豊かな児童生徒の育成と創造的な教育経営の推進を柱に、次のような重点施策を推進しています。

○心豊かな人づくり

徳・知・体の調和ある人間形成をめざして道徳教育や基礎学力の充実、生徒指導の徹底、さらに郷土教育、勤労教育、愛鳥教育、環境保護教育などの推進を図っています。

また、同和教育は、すべての児童生徒に人権尊重の精神を認識させ、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくしていく意欲と実践力を育成するため、全教育活動を通して積極的に推進しています。

○進展する社会への対応

豊かな国際性と国際理解を深めるための、国際理解実践校の委嘱や国際理解研修会、さらには、アメリカから英語の先生を招いて、生きた英語学習などを進めています。

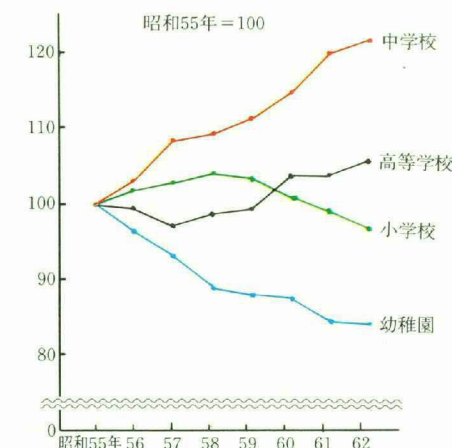
○健康づくり

基礎体力の養成とともに、心の健康を大切にする健康教育実践校の委嘱、健康優良校の育成、素足の励行や部活動の適正化など、健康習慣の形成を通して、真の健康教育を推進しています。

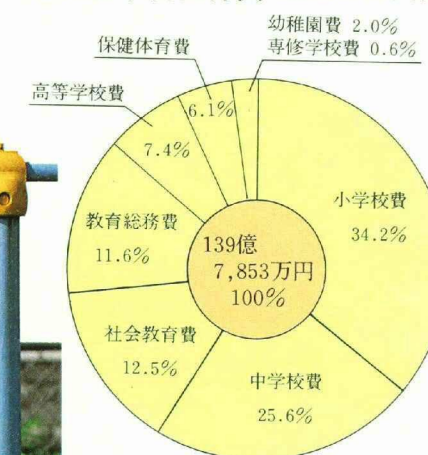
また、昭和62年9月、千葉城町のNHK北側にオープンした教育センターでは、学校教育並びに社会教育に関する、教育課題の解決に必要な調査、研究をはじめ、教育関係者の研修、各種教育相談など指導力向上を図るための場と機会を積極的に提供し、その活用を図っています。

人間性豊かな子どもたちに
育てるために。

在学者数の推移（幼・小・中・高）



昭和63年度教育費（歳出当初予算）



Human City くまもと

学校施設

学校は、教育、学習の場であるばかりでなく、児童生徒が一日の大半を過ごすことから、それにふさわしい、ゆとりと潤いをもたらす施設である必要があります。

そこで、市ではより豊かな教育環境づくりを進めるために、校舎の増改築や施設の改善をはじめ、教室の整備拡充、学習指導方法の多様化に対応できる多目的スペースの建設、彫刻や壁画等の文化性を取り入れた質的整備、屋内運動場や水泳プールの増改築など、毎年計画的に進めています。こ



池上小学校

のほか、教育の適正化を図るための過大規模校の分離新設についても、鋭意取り組んでいます。

63年度は、唯一の木造校舎であった池上小学校の新校舎が完成しました。敷地が狭隘のため、裏山を造成し地形を利用した体育館やプールの建設、運動場との段差を利用したスタンドの設置など、ユニークな施設の配置に加え、校舎は安全性を考慮してピロティー方式を採用し、2階以上が教室（4階建）になっています。更に、室内は床や壁に県産材をふんだんに利用し、オープン教室を多く取り入れる

ゆとりある、充実した
教育の場づくりを。



など、ゆとりと潤いのある教育環境の創出に工夫を凝らしています。

また、63年度、東野中学校から体育館の改築時に合わせて、柔剣道場の建設やミーティング室、更衣室、便所などを備えたクラブハウスを新設するなど、地域ぐるみで、たくましく、心豊かな児童生徒を育成するための総合的な体育施設の建設を進めることにしています。

Human City くまもと

社会教育

生涯学習のまちづくり

21世紀に向けて、生活様式が複雑化、多様化していく中で、生涯にわたる市民の学習要求が急速に高まっています。市ではこれらに応えるために、社会の様々な教育機能を総合的、有機的に活用するとともに、学習情報の提供や生涯学習を進める住民大会、生涯学習モデル事業などを実施し、その充実振興に努めています。

社会教育施設

生涯教育の機会と内容の充実を図るために、次の社会教育施設の整備充実に努めています。

○市立公民館

市民コミュニティ醸成の拠点として各地域の市民センター（西部、南部、東部、龍田、託

いつでも、誰にでも、
生涯学習の機会を提供。

麻、幸田、清水、秋津、大江）内に公民館を併設しています。中央公民館と合わせると現在、10館あります。

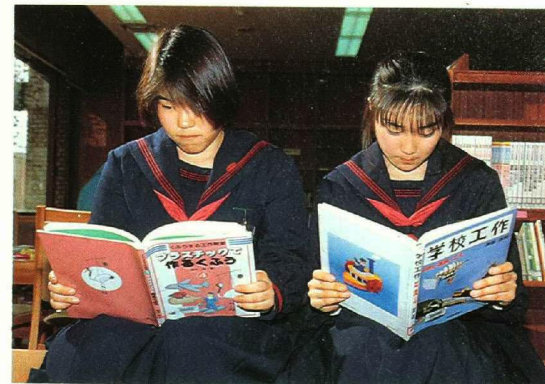
公民館では、市民の学習欲求に応じて教育、学術、文化に関する各種の講座、学級などを開設し、受講者数は年間2万5千人を超えています。

○市立図書館

本館は大江6丁目の文教地区にあり、各地域の公民館8ヵ所に分館を置いています。1階は一般貸出し、閲覧、児童、お話しコーナー、参考資料室、身体障害者福祉室、2階は集会室、ホール、視聴覚ライブラリーなどがあり近代的図書館機能を備え、研修、貸出しなど多数の市民が利用しています。

○博物館

古京町の熊本城内にあり、自然人文、理工科学関係資料総数1万1千余を展示し、西日本一の規模を持つプラネタリウムも併設しています。また「星をみる会」等の各種教室を開設するほか、特別展を開催するなど、社会教育のみならず学校教育の場を提供するなど総合博物館としての機能を備えています。



読書風景（市立図書館）

このほか、青少年教育及び対策としては、昭和62年7月に完成した青年会館（総合体育館と併設）を青年活動の拠点として、青年教室の開催や青年リーダー養成などを行っているほか、児童育成クラブの開設、青少年補導センターの充実、更には「熊本市少年海洋体験の船」、高校生の中国桂林市訪問など国際交流の推進も図っています。

大江市民センター



Human City くもと

地域文化

本市には、熊本城や水前寺成趣園をはじめ千金甲古墳など、歴史に培われた多くの文化遺産が大切に保存され、訪れる人々に深い感銘を与えています。その中の1つである重要文化財熊本城宇土櫓は、平成元年に修復が完成し、装いも新たに一般公開されます。

また、横井小楠、徳富蘇峰・蘆花など郷土ゆかりの先哲の顕彰と明治の文豪、夏目漱石、小泉八雲の文学遺跡の保存に努めています。

市内指定文化財

	国指定	県指定	市指定
建造物	3	11	18
美術工芸品	8	53	11
無形文化財	—	3	—
無形民俗文化財	—	1	3
史跡	3	5	22
史跡名勝	1	2	—
天然記念物	5	—	3
計	20	75	57

個性ある
市民文化を醸成し、
文化香るまちに。

一方、博物館、美術館をはじめ市民会館、産業文化会館、青年会館などの文化施設では市民の各種文化活動や芸術家による優れた芸術活動が展開されており、熊本の文化向上の原動力となっています。

昭和62年には国民文化祭、63年には全国高等学校総合文化祭と全国レベルの文化行事が開催される中で、市民の文化志向も一段と高まり、文化の時代と言われるにふさわしい状況をつくりだしています。

このような背景のもと、さらに文化財を愛護する気持を育てるとともに、地域に根ざした個性ある市民文化の育成振興に努めています。

総合体育館正面玄関壁画



Human City くもと

健康文化

体育・スポーツは、健全な心身の発達を促し、人間性豊かな、健康で文化的な生活を営み、活力ある都市づくりを進めるうえで極めて重要な役割を果たしています。

そこで本市では「21世紀へ向けての明るく豊かな健康、文化都市づくり」を目指し、体育スポーツを生涯を通じた健康、文化活動としてとらえ、その実現を図るための総合的な施策の推進に努めています。

スポーツ施設等の整備拡充

本市には、スポーツ施設と青年活動の施設を併設した熊本市総合体育館（昭和61年7月開館）やコミュニティスポーツ施設第1号の龍岡体育館をはじめ野球場、陸上競技場、バレーコート、テニスコート、武道場など多くの体育施設があります。

心身ともに健全な
市民が生む、まちの活力。

そこで、市民が日常生活の中で、いつでも気軽に利用できるように体育施設の整備拡充と効果的利用の促進に努めています。

〈田迎公園運動施設〉浜線健康パーク
また市制百周年に当たる平成元年2月は浜線健康パークがオープンしました。

敷地面積4万8千平方メートルの大規模公園でスポーツ施設と公園機能を備えた健康文化施設として、地域の人々に大きな期待が寄せられています。園内には屋内プール、体育館、テニスコート、ゲートボールコート、運動広場等があります。

スポーツ活動の振興

市民総参加として定着している市民体育祭や市民マラソン大会などの各種行事を尚一層、推進するとともに、スポーツの生活化、地域に根ざしたスポーツ文化活動の促進、高齢者スポーツの普及振興など、市民総スポーツ活動の推進に努めています。

このほか社会体育組織の充実や指導者の養成・確保にも力を注いでいます。

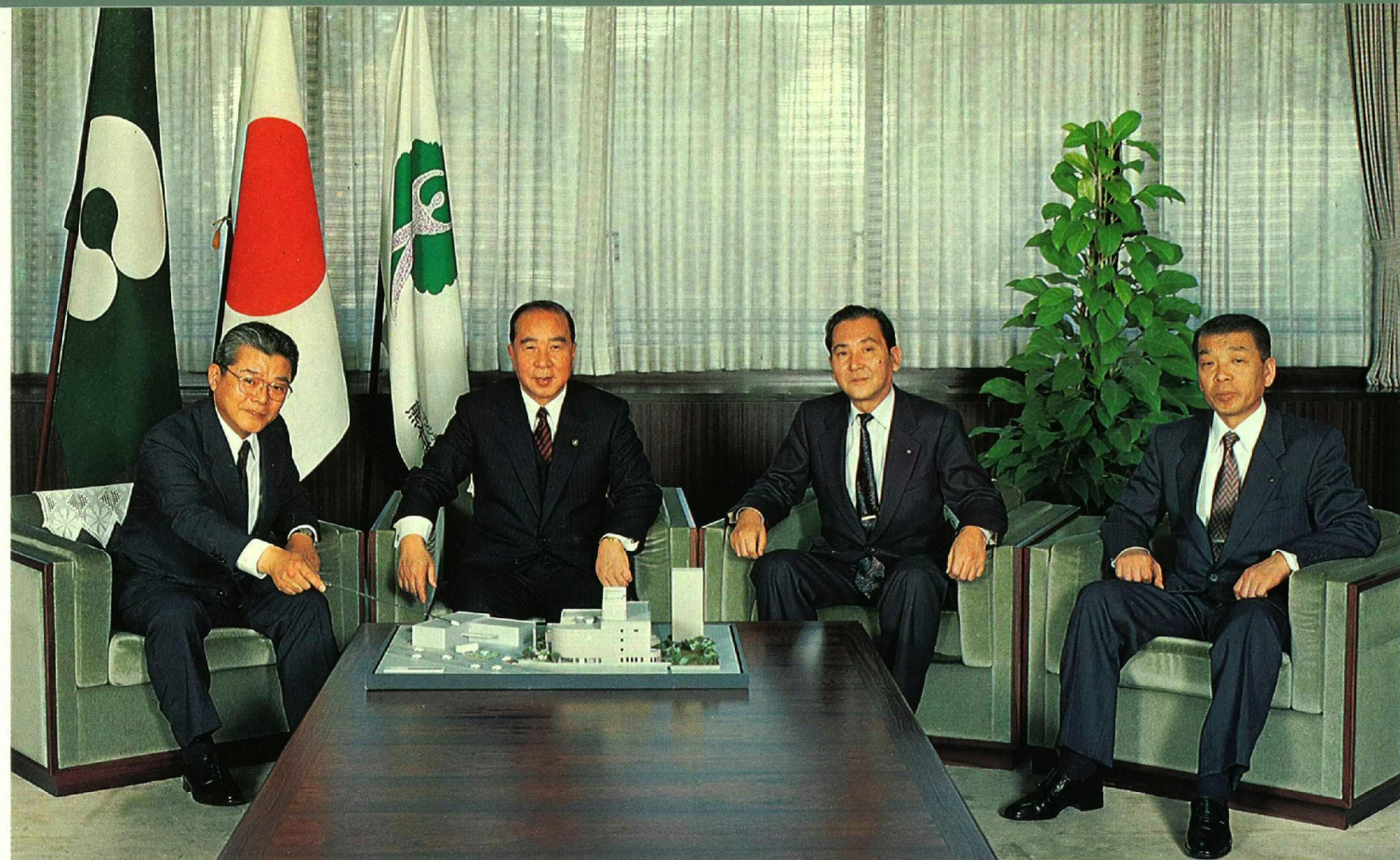


総合体育館・青年会館



浜線健康パーク

行政



左から柏尾誠之助役、田尻靖幹市長、御厨一熊助役、大崎誠則収入役

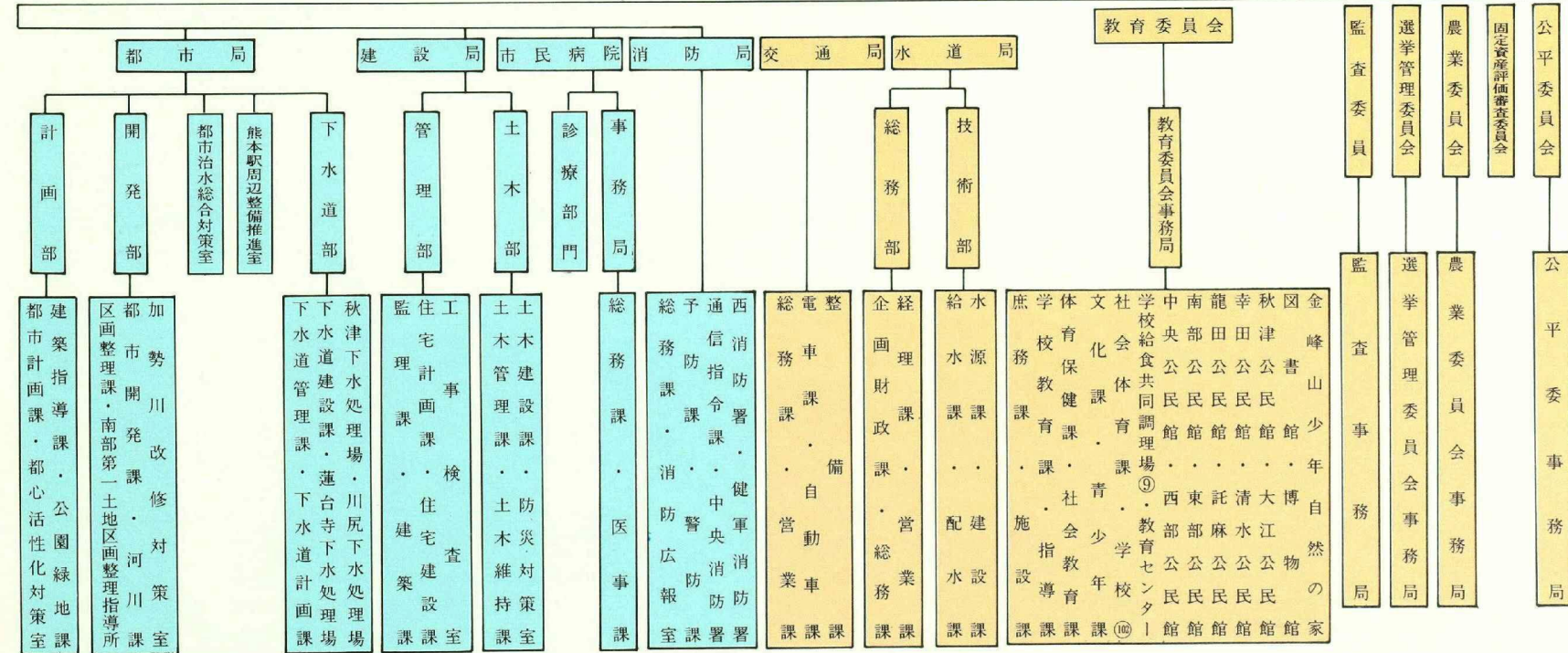
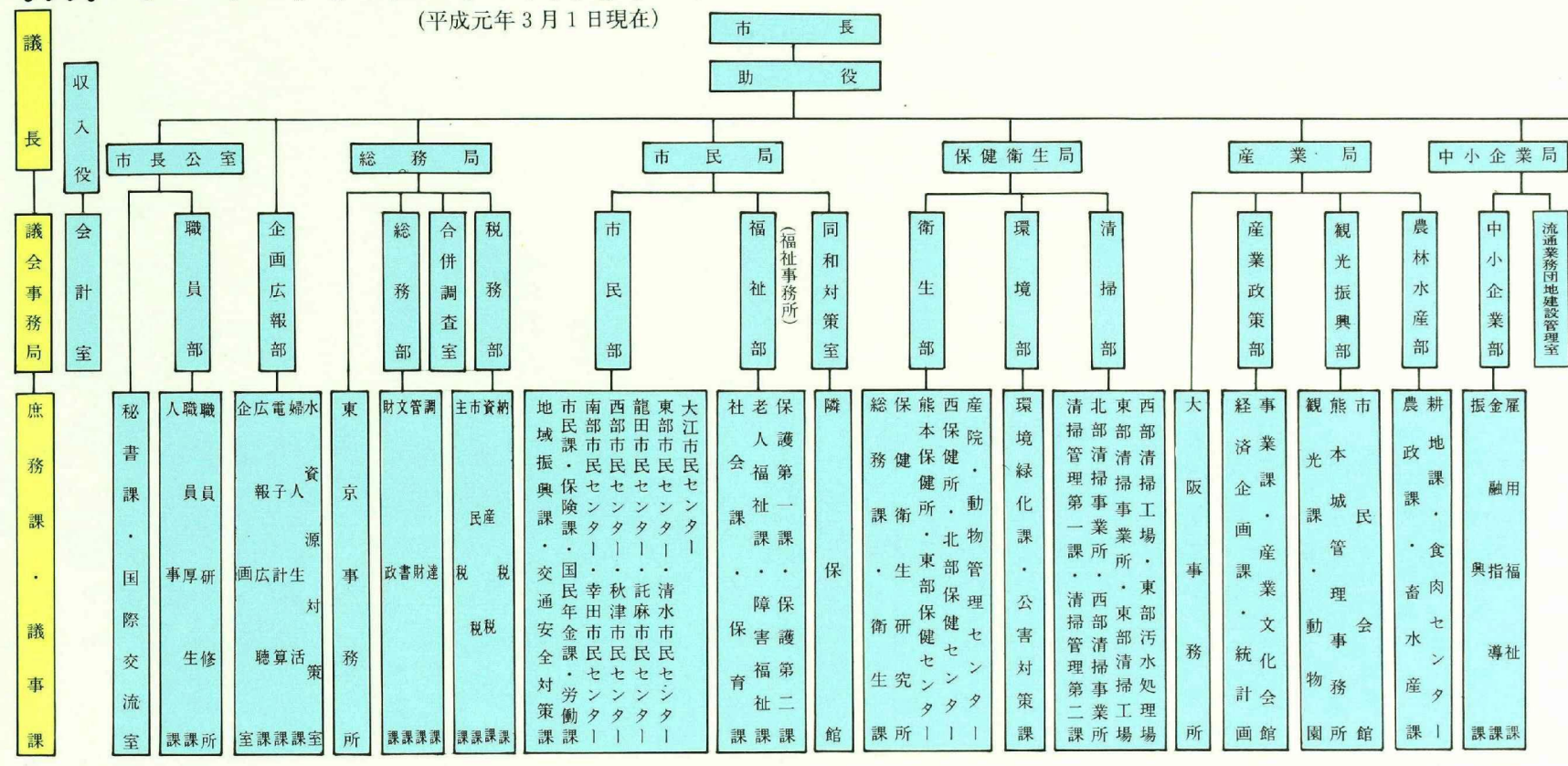


●歴代市長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
第1代	杉村大八	明治22. 5. 6	明治26. 7. 9
2	松崎為己	" 26. 9. 15	" 30. 8. 2
3	辛島格	" 30. 9. 13	大正2. 1. 20
4	山田珠一	大正2. 4. 2	" 3. 10. 10
5	依田昌兮	" 4. 1. 14	" 6. 9. 3
6	佐柳藤太	" 6. 11. 20	" 10. 11. 19
7	高橋守雄	" 11. 1. 19	" 14. 7. 13
8	辛島知己	" 14. 9. 14	昭和4. 7. 4
9	山田珠一	昭和5. 2. 5	" 9. 4. 17
10	山隈康起	" 9. 5. 14	" 17. 5. 13
11	平野龍	" 17. 6. 25	" 20. 8. 10
12	石坂繁	" 20. 10. 4	" 21. 3. 11
13・14	福田虎亀	" 21. 6. 14	" 23. 2. 9
15	佐藤真佐男	" 23. 4. 7	" 27. 3. 7
16	林田正治	" 27. 3. 21	" 31. 2. 23
17・18	坂口主税	" 31. 3. 16	" 38. 1. 4
19・20	石坂繁	" 38. 2. 15	" 45. 11. 26
21~24	星子敏雄	" 45. 12. 20	" 61. 12. 6
現市長	田尻靖幹	" 61. 12. 7	在任中

熊本市行政機構図

(平成元年3月1日現在)



市議会

市議会は、市民から選ばれた議員52名で構成されています。会派としては、自民党(18名)、公明党(8名)、社会党革新クラブ(8名)、市民クラブ(7名)、共産党(3名)政策集団・二十一世紀クラブ(3名)、民社党(2名)、熊本クラブ(1名)、市政クラブ(1名)、くまもと千人クラブ(1名)の10会派が結成されています。

会議は、年4回開かれる定例会と必要がある場合に開かれる臨時会があります。内

部の審査機関としては、常任委員会と特別委員会があります。常任委員会は総務・教育民生・保健衛生・経済・建設・公営企業の6委員会に分かれ、所管部門の事務を調査し、議案・陳情などの審査を行います。特別委員会は必要に応じて議会の議決により設置されますが、付議された事件を審査するもので、現在、議会運営、総合都市調査、環境整備の各特別委員会があります。



村上 春生議長



村上 裕人副議長

●歴代市議会議員

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	有馬源内	明治22. 4.26	明治24. 1.21	13	佐藤真佐男	昭和22. 6. 9	昭和23. 4. 7	25	落水清	昭和46. 5.20	昭和48. 6. 6
2	興津景章	" 24. 1.22	" 28. 5.13	14	大塚勇次郎	" 23. 6. 5	" 26. 4.29	26	古川国雄	" 48. 6. 6	" 50. 4.30
3	河原惟親	" 28. 5.14	" 31. 5.22	15	大塚勇次郎	" 26. 5.15	" 30. 4.30	27	紫垣正良	" 50. 5.16	" 52. 6. 4
4	吉永為己	" 31. 5.23	" 36. 2. 5	16	兼坂安次	" 30. 5.21	" 34. 4. 8	28	上田堅太	" 52. 6. 4	" 54. 4.30
5	山田珠一	" 36. 2. 6	" 37. 4.30	17	打出信行	" 34. 6.12	" 36. 3.24	29	島永慶孝	" 54. 5.14	" 56.12. 8
6	吉永為己	" 37. 5.27	大正 2. 4.30	18	寸坂幸夫	" 36. 3.24	" 38. 4.30	30	藤山増美	" 56.12. 8	" 58. 4.30
7	林千八	大正 2. 5.10	" 6. 4.30	19	阿部次郎	" 38. 5.18	" 40. 3.18	31	宮原光男	" 58. 5.18	" 60. 9. 6
8	山隈康	" 6. 5.15	" 10. 9.30	20	井上常八	" 40. 3.18	" 40.12. 7	32	大石文夫	" 60. 9. 6	" 61.12.15
9	迫源次郎	" 10.10.14	" 14. 9.30	21	石井辰雄	" 41. 7. 4	" 42. 4.30	33	内田幸吉	" 61.12.15	" 62. 4. 3
10	山隈康	" 14.10.12	昭和 9. 5. 7	22	阿部次郎	" 42. 5.20	" 43. 7. 3	34	西村建治	" 62. 5.22	" 63.12.16
11	平野龍起	昭和 9. 5. 8	" 17. 6.14	23	坂梨日露	" 43. 7.13	" 45.12. 4	35	村上春生	" 63.12.16	在任中
12	佐藤真佐男	" 17. 7.23	" 22. 4.29	24	黒田弥一郎	" 45.12. 4	" 46. 4.30				

●歴代市議会副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	下田一直	明治22. 4.26	明治24. 1.21	15	河田巖	大正14.10.12	昭和 4. 9.30	29	佐藤寿子	昭和42. 5.20	昭和44. 3.24
2	下田耕造	" 24. 1.22	" 31. 5.22	16	平野龍起	昭和 4.10.12	" 9. 5. 7	30	古川国雄	" 44. 3.25	" 44. 6.28
3	片山甚十郎	" 31. 5.23	" 32. 2. 7	17	橋本寿七	" 9. 5. 8	" 17. 5.20	31	岩尾恵	" 44. 9.13	" 46. 4.30
4	林定男	" 32. 2. 8	" 36. 2. 5	18	西郷一恵	" 17. 6.11	" 22. 4.29	32	阪本富	" 46. 5.20	" 48. 6. 6
5	出田彦太郎	" 36. 2. 6	" 36. 2.11	19	大塚勇次郎	" 22. 6. 9	" 23. 6. 5	33	荒木昇	" 48. 6. 6	" 50. 4.30
6	園部交雅	" 36. 2.12	" 36. 5.11	20	加川恒次	" 23. 6. 5	" 26. 4.29	34	藤山増美	" 50. 5.16	" 52. 6. 4
7	板垣正軌	" 36. 5.12	" 37. 2.12	21	北利民	" 26. 5.15	" 28. 9. 5	35	矢野昭三	" 52. 6. 4	" 54. 4.30
8	有働格四郎	" 37. 2.13	" 40.11. 4	22	上野勉	" 28. 9.25	" 30. 4.30	36	上妻重蔵	" 54. 5.14	" 56.12. 8
9	板垣正軌	" 40.11.14	" 42. 1.27	23	森光吉	" 30. 5.21	" 32.12.28	37	田尻武男	" 56.12. 8	" 58. 4.30
10	河田巖	" 42. 1.28	大正 2. 4.30	24	吉村貞次	" 34. 6.12	" 35. 3.21	38	白石正	" 58. 5.18	" 60. 9. 6
11	井場熊喜	大正 2. 5.10	" 6. 4.30	25	坂梨日露	" 35. 3.21	" 37. 7. 9	39	北口政義	" 60. 9. 6	" 61.12.15
12	峡謙斎	" 6. 5.15	" 7. 3.10	26	吉村貞次	" 37. 7. 9	" 38. 4.30	40	吉村潔	" 61.12.15	" 62. 4.30
13	藤野乱	" 7. 3.11	" 10. 9.30	27	石井辰雄	" 38. 5.18	" 41. 7. 4	41	竹本勇	" 62. 5.22	" 63.12.16
14	水上誠規	" 10.10.14	" 14. 9.30	28	吉村貞次	" 41. 7. 4	" 42. 4.30	42	村上裕人	" 63.12.16	在任中

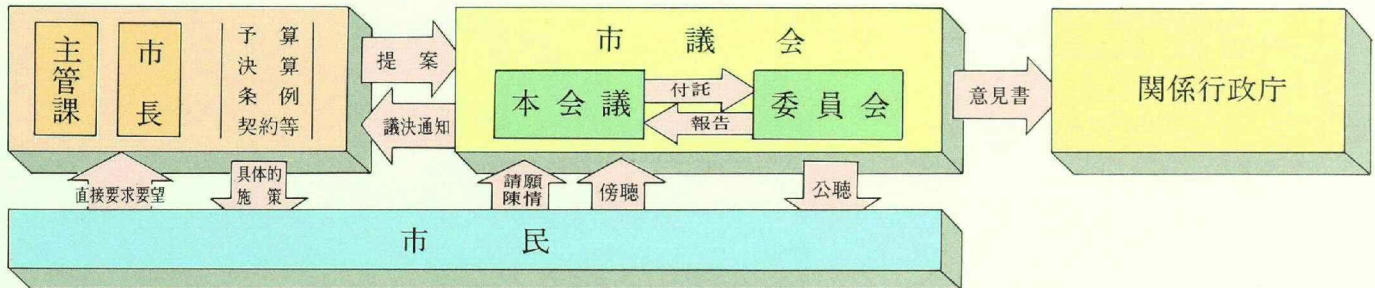


議場

●常任・特別委員会 (平成元年3月1日現在)

名称	定数	所管事項
常任委員会		
総務委員会	9	市長公室、企画広報部、総務局、会計室、消防局、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会の所管に属する事項、他の常任委員会の所管に属しない事項
教育民生委員会	9	市民局、教育委員会の所管に属する事項
保健衛生委員会	8	保健衛生局の所管に属する事項
経済委員会	9	産業局、中小企業局、農業委員会の所管に属する事項
建設委員会	9	都市局、建設局の所管に属する事項
公営企業委員会	8	水道局、交通局の所管に属する事項
特別委員会		
議会運営委員会	12	議会運営に関する事項についての審査
総合都市調査特別委員会	13	都市圏、都市整備及び国際化に関する調査
環境整備委員会	13	自然環境、都市景観及び観光政策に関する調査

●市議会のしくみ



●市議会議員 (平成元年3月1日現在)

氏名	会派	氏名	会派
村上春生	自民党	井上義治	社会党革新クラブ
村上裕人	"	吉田精一	"
落水清弘	政策集団・二十一世紀クラブ	角田勝浩	公明党
下田耕士	くまもと千人クラブ	中沢誠	"
奥田光弘	熊本クラブ	中村徳生	自民党
鈴木昌彦	民社党	竹本勇	"
家入安弘	社会党革新クラブ	鳴田幾雄	"
松江昭	"	大石文夫	"
磯道文徳	公明党	西村建治	市民クラブ
西泰史	"	西田統	"
諸熊文雄	自民党	佐藤公平	"
吉見輝雄	"	岩下恵治	共産党
荒木あきひろ	"	森田粹彌	社会党革新クラブ
江藤正行	"	佐々木亮	公明党
内田三千夫	市民クラブ	田尻武男	自民党
山内光昭	"	紫垣正良	"
益田牧子	共産党	島永慶孝	"
河上洋子	社会党革新クラブ	矢野昭三	"
竹口博己	公明党	宮原光男	"
亀井省治	"	藤山増美	市民クラブ
荒木哲美	自民党	白石正	政策集団・二十一世紀クラブ
主海偉佐雄	"	村山義雄	"
伊形寛治	市政クラブ	沢田一郎	共産党
藤本栄次	自民党	塩沢臨	社会党革新クラブ
宮原正一	市民クラブ	中山弘規	"
本田光夫	民社党	西野法久	公明党

財政

地方をとりまく財政環境は、市税の伸び悩みや、国庫補助負担率引き下げ措置等、依然として厳しいものがあります。

このような状況のなかで、本市の昭和63年度予算は社会情勢の変化を的確に見極め国の内需拡大策に呼応し、更には、目前に迫った市制100周年に向けて、健全財政基調を堅持しながらも最重点施策である「地域経済活性化」のための社会資本の整備拡充をはかる積極的な予算編成を行っています。

その主な内容は、まず第一に、「市制100周年への対応」です。市議会や関係団体が一体となった実行委員会を発足させ、百周年記念行事の展開に具体的に取り組むとともに、本市将来の発展を期した記念事業として地下駐車場の整備、シンボルロードの整備、熊本流通情報会館（仮称）、総合婦人会館・カルチャーセンター（仮称）の建設を意欲的に推進し、市民の共感と参加による百周年の実現を目指します。

第二に、「地域経済の活性化」です。これは関西経済へのアプローチを図る大阪事務所の新設をはじめ、商店街や地場製造業の活性化対策に取り組むとともに、観光資源の整備、キャンペーンの展開、バイオ農業の促進等、観光・都市農業の振興に力を注ぐものです。

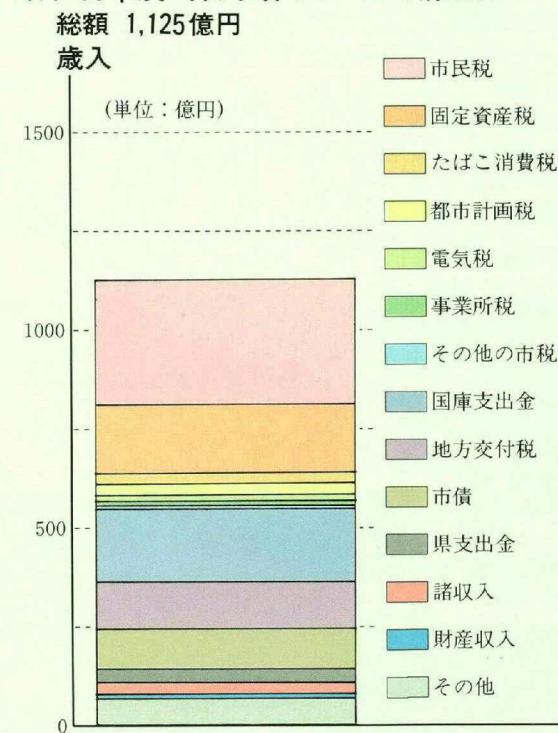
第三に、「変革の時代への対応」です。まず、国際化の進展に呼応し、友好都市桂林市、新姉妹都市サンアントニオ市との交流の一層の活性化を図ります。高齢化社会への対応としては、老人生きがい対策、介護対策の拡充等を進め、児童・母子・心身障害者福祉対策とともに施策の新たな展開を図っています。更に熊本地域ニューメディア構想を推進する等、高度情報化への対応を目指し、また、婦人の地位向上、ビジョンづくりなど、婦人問題についての事業を展開します。

第四に、「魅力ある都市環境の形成」です。こ

れは、まず、本市の誇りとする水と緑の環境保全のために、地下水保全対策、都市緑化を推進します。また、優れた都市景観の創造を目指し、住宅、道路、公園などの社会資本を整備し、再開発、土地区画整理事業等、活力に満ちた秩序ある市街地の形成を推進していきます。

最後に、「21世紀を支える人材の育成」です。これは、義務教育施設の整備や、生徒の意欲を引き出す視聴覚教育の推進など、青少年の健全育成に力を注ぎます。また、数寄屋丸二階御広間の復元計画や採釣園の整備など、歴史遺産の保全、活用をはかり、南部保健センターをはじめとする健康文化施設の整備など生活文化、健康文化の振興に取り組んでいきます。

昭和63年度当初予算(一般会計)構成比

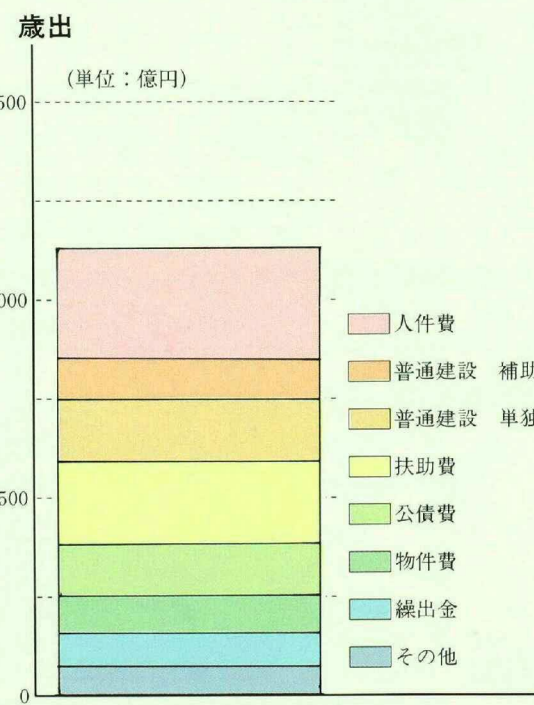


その結果、本市の当初予算は、

一般会計	112,500,000千円	(7,900,000千円 7.6%増)
特別会計	100,643,000千円	(6,602,458千円 7.0%増)
企業会計	27,312,000千円	(135,178千円 0.5.%増)
総計	240,455,000千円	(14,637,636千円 6.5%増)

となりました。

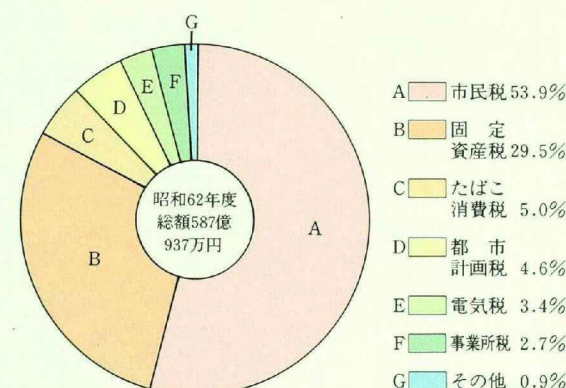
一般会計において、歳入面では、自主財源と依存財源の構成比でみると、自主財源が58.9%（前年度61.1%）となっており、うち市税が歳入総額の51.4%（前年度53.2%）を占めています。



また、歳出面では、目的別にみえますと、民生費（23.7%）、土木費（21.7%）、教育費（12.4%）と市民生活に密着した科目で予算の半分以上を占めています。また、性質別には、社会資本の整備を図る投資的経費について財源の許す限り積極的に予算を重点配分しています。

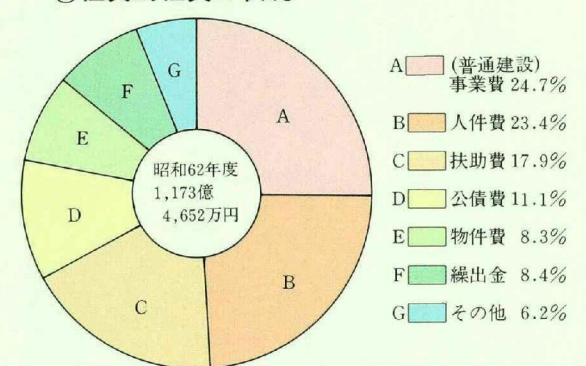
このように、厳しい財政状況下にあいながらも、市民生活の充実と、市政の健全な発展を一層期すべく編成した本年度予算の執行は総合的・長期的視点に立って、経費節減、事務事業の見直しなど、より一層の創意工夫をこらして、効率的な予算運用を図り、これまで同様健全財政の堅持に務めることとしています。

③市税収入の税目別内訳

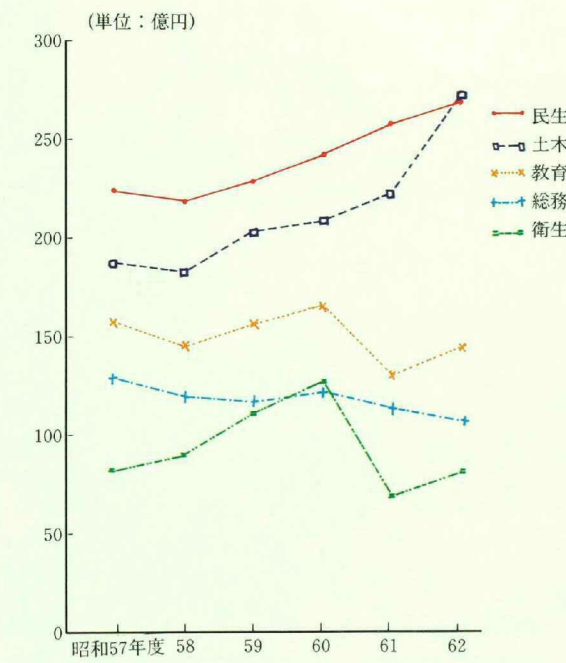
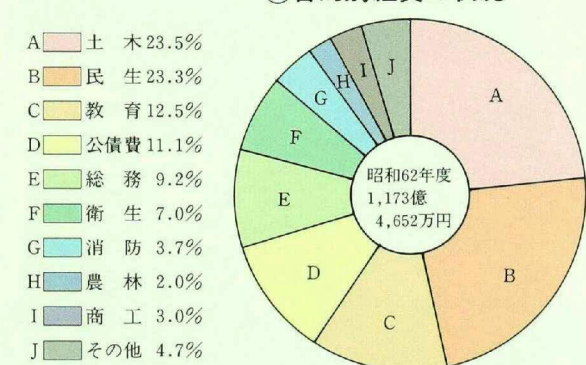


昭和62年度決算(一般会計)の状況

①性質別経費の状況



②目的別経費の状況



昭和63年度当初予算の主要概要

「市制施行100周年への対応」	
市制100周年実行委員会補助金	120,000
市史編さん経費	20,000
シティホール建設調査経費	3,000
海洋水族館基本構想調査委託	5,000
総合婦人会館・カルチャーセンター等建設事業	859,100
水源涵養林造成事業	27,000
流通情報会館建設事業	1,163,200
地下駐車場建設事業	49,000
シンボルロード整備事業	350,000
「地域経済の活性化」	
大阪事務所開設経費	26,000
地場産業振興フェア開催経費	6,000
エリアマーケティング調査経費	6,000
中小小売商業流通情報化推進事業	11,000
中小企業共同化推進事業助成	20,000
「超魅力くまもと」キャンペーン経費	20,000
コンベンション受入特別対策経費	8,230
動物資料館建設事業	332,000
農業用排水路整備事業	690,000
「変革の時代への対応」	
市民友好の翼等国際交流経費	29,572
熊本市農業技術協会開催経費	55,000
シルバー人材センター運営助成	32,600
在宅老人デイサービス事業	33,441
心身障害者福祉対策事業	85,040
ニューメディア関係経費	31,623
婦人行政推進経費	7,190
「魅力ある都市環境の整備」	
自然環境保全対策事業	18,562
地下水保全対策経費	39,500
緑化推進事業	160,000
道路環境整備事業	500,000
公衆トイレ美観化経費	60,000
軌条更新及び舗装事業	240,320
公園整備事業	981,520
公共下水道築造事業	9,500,000
第4次拡張事業(水道)	1,385,639
用途地域見直し基礎調査	7,500
近見地区土地区画整理促進事業	25,000
「21世紀を支える人材の育成」	
育成奨学金	9,000
視聴覚教育推進事業	81,000
義務教育施設大規模改修事業	420,000
格技場整備事業	47,500
英語指導者招致事業	8,900
採釣園整備事業	70,000
健康文化施設整備経費	195,300
熊本城数寄屋丸二階御広間復元事業	309,400
南部保健センター建設等健康増進対策経費	731,673

広報・広聴

本市の広報・広聴は、21世紀に向けて「人間味あふれる街—ヒューマンシティづくり」のために、5つの重点施策「ポリシー5」を基に進めています。

広報活動は、この「ポリシー5」を中心とした市政に対する理解と関心を高めるとともに、市政への市民参加を進めるために適時、適切な市政情報をいろいろな広報媒体を通して提供しています。

特に、市制100周年を迎える今年は、各種行事や新しい熊本の魅力を紹介し、市制100周年を盛り上げていきます。

広聴活動は、広く市民の声を聴き、市政に反映させるため、市政懇談会や市政モニター制度を活用しながら進めています。

市政だよりなどによる広報

月1回1日発行、全世帯配布、発行部数約19万5千部。また、弱者や目の不自由な方などのために

「拡大版市政だより」「点字市政だより」「声の市政だより」を配布。

このほか、市の施策方針を紹介した「ヒューマンシティくまもと」(年1回)やその施策を具体的に紹介する「萌」(年3回)を発行し配布。

テレビ・ラジオによる広報

「市民のひろば・手取本町1番1号」

RKK・TV 毎週土曜日 午前9時25分～(5分間)

「こちら熊本市」

TKU・TV 毎月第4土曜日

午前8時15分～(15分間)

「みどりの街から熊本市」

KKT・TV 毎週日曜日 午前11時45分～(5分間)

「フレッシュ・フラッシュ・クマモト」

FMKラジオ 毎週火曜日 午前8時40分～(5分間)

このほかテレビスポットも随時放送します。

市政モニター

市政に対するいろいろな意見を地域別、年代別等組織的に聴き、市民の声として市政に反映させる。

モニター 53人 研修会等開催 9回

市民相談

行政サービスの向上を図るため、市民相談窓口では多くの要望、苦情などを迅速に対応し処理している。また、特別相談として、専門相談員による法律、税務、登記などの相談を行っている。

市政相談年度別受付件数

昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度
1,634件	1,284件	1,261件	939件	903件

特別相談利用状況(昭和62年度)

サラ金 (苦情)相談	法律相談	登記 相談	人権 相談	税務 相談	その他
730件	720件	387件	323件	183件	19件



市政懇談会



市政番組の収録



市政懇談会

市政に対する意見や提言を聴き、市民意識を把握して、今後の市政運営に反映させる。